

総括研究報告書

課題番号：29-19

課題名：妊娠期から始まる、自閉スペクトラムの母親とその子どもへの支援及びそれに関係する心理社会的因子についての疫学研究

主任研究者名 立花良之 国立成育医療研究センター
こころの診療部 乳幼児メンタルヘルス診療科 医長

(研究成果の要約)2012年12月から2013年3月の間に世田谷区の全分娩施設で出産した母親を対象にコホート調査を行っており、そのフォローアップ調査を2017年度に行った。子ども虐待と関係の深い母親の心理社会的要因として、発達障害傾向や衝動性が重要であることを明らかにし、Scientific Reports 誌に発表した (Tachibana et al., 2017)。育てにくさを持つ児と親子の支援のメタアナリシスを行い、「児の対人相互交流」と「母親の児への情緒応答性」が支援によって伸びることの期待できる重要なアウトカムであることを明らかにし、PLOS ONE 誌に発表した (Tachibana et al., 2017)。また、育てにくさを持つ児とその母親への支援として、グループ指導・個別指導の介入研究のメタアナリシスを行い、児の対人相互交流はグループ指導・個別指導の両方で有意に伸びるが、「母親の児への情緒応答性」は個別指導でのみ有意に伸びることを明らかにし、PLOS ONE 誌に発表した (Tachibana et al., in press)。また、自閉症のスクリーニングである Social Responsive Scale 日本語版の標準化を行った (Sticklely, Tachibana, et al., 2017)。

1. 研究目的

本研究では、自閉スペクトラム症を持つ母親は、育てにくさを子どもに対して感じる場合、周産期から母子保健関係者が注意すべき点があるとの仮説を立て、世田谷区における母子のメンタルヘルスのコホート研究のフォローアップ調査を実施することでその仮説を検証することを目的とする。

2. 研究組織

主任研究者

立花良之 (国立成育医療研究セ

ンターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科)

研究協力者

竹原健二 (国立成育医療研究センター
研究所政策科学研究部)水本深喜 (国立成育医療研究センター
こころの診療部)仁田原康利 (国立成育医療研究センター
こころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科)

3. 研究成果

2012年12月から2013年3月の間に世田谷区の全分娩施設で出産した母親を対象にコホート調査を行っており、そのフォローアップ調査を2017年度に行った。フォローアップ調査では1065名の有効回答があった。

子ども虐待と関係の深い母親の心理社会的要因として、発達障害傾向や衝動性が重要であることを明らかにし、Scientific Reports 誌に発表した (Tachibana et al., 2017)。

育てにくさを持つ児と親子の支援のメタアナリシスを行い、「児の対人相互交流」と「母親の児への情緒応答性」が支援によって伸びることの期待できる重要なアウトカムであることを明らかにし、PLOS ONE 誌に発表した (Tachibana et al., 2017)。また、育てにくさを持つ児とその母親への支援として、グループ指導・個別指導の介入研究のメタアナリシスを行い、児の対人相互交流はグループ指導・個別指導の両方で有意に伸びるが、「母親の児への情緒応答性」は個別指導でのみ有意に伸びることを明らかにし、PLOS ONE 誌に発表した (Tachibana et al., in press)。また、自閉症のスクリーニングである Social Responsive Scale 日本語版の標準化を行った (Stickley, Tachibana, et al., 2017)。

本研究実施にあたり、国立成育医療研究センター倫理審査委員会の承認を受けた。

4. 研究内容の倫理面への配慮